

## 都電荒川線の旅



今回は早稲田、三ノ輪橋間の下町エリアを結ぶ「都電荒川線」に乗って、沿線に残る昭和の東京を訪ねてみました。都電の誕生は明治44年、今ではこの荒川線だけになってしまいましたが、全長12.21キロの間に30の駅があり、途切れることの無い多くの乗降客を見ていると現在でも重要な交通機関として十分に活用されていることがうかがえました。

新宿区西早稲田1丁目22番地の新目白通りに「早稲田」駅があります。路線バス以外連絡できる交通機関が無い場所なのに、どうして此处が発駅であり終着駅になったのか、とても興味を引く駅からの出発となりました。

初めに「鬼子母神前」で下車、雑司が谷の鬼子母神法明寺へ向いました。恐れ入谷の鬼子母神で有名な真源寺とどちらの方が歴史があるのだろうか、などと思いながらケヤキがうっそうと繁った参道を進むと樹齢600年といわれる大木が目を引きまします。境内には都内で麻布善福寺に次ぐ巨木といわれる天然記念物のイチヨウもあり、歴史を感じさせるに十分な状景でした。境内にある都内で一番古い駄菓子屋「上川口屋」は、参拝客が多くなる様子で店開きになるのでしょうか、しばらく待ってみたものの店は閉まったままでした。

おばあちゃんの前宿で有名な巣鴨地蔵通商店街に近い「庚甲塚」で下車、下車したホームが店先になっている休み処「いっぽく亭」があり、都電ならではの親しみを感じます。手づくりおはぎが名物で、文字通り電車を待つ間いっぽくできるお店です。

商店街の入り口から巣鴨に向かって庚甲塚の猿田彦大神、とげぬき地蔵の高岩寺、江戸六地蔵の三番目尊真性寺と続いています。商店街を歩くと確かに中高年の女性グループが多く、買物に、食

事にと賑やかに楽しんでいる様子が随所で見受けられました。有名な「元気の出る赤パンツ」の店には沢山の人ばかり。日に焼けた「本日特売日」のノボリが今日もはためいている店などもあって、興味津々な光景の連続でした。

さすがに「とげぬき地蔵」の人気はすさまじく、参拝者の切れ目がありません。それに引き換え「江戸六地蔵」の方はひっそりとマンションをバックに佇んでいました。

「飛鳥山」から「王子駅前」までの一区間を歩いてみました。飛鳥公園があり園内には紙専門の紙の博物館、北区の歴史を学べる飛鳥山博物館、渋沢栄一の資料を展示している渋沢資料館の三つの博物館があります。王子駅近くに自然の川を模した音無親水公園があり、清涼を求めて格好のデートスポットになっているようです。

「小台」で下車、ちょっとさびれた感じの小台銀座を歩いてみました。昔なつかしい駄菓子屋の「こどもの店」や「おもちゃ屋」を発見するものの閉まっている店が多いのにはびっくり、「今日は定休日の日ですか」の間に「いえ、そうではないのですが休業している店が多いのです」との返事。時の流れでしょうか、小台銀座の看板と街路灯にはためく統一された飾旗が侘しく感じられました。

終点の「三ノ輪橋」は出発の早稲田と比べてとても賑やかです。近くに地下鉄日比谷線の三ノ輪橋もあるせいでしょうか、隣接する三ノ輪商店街は人通りも多く活気に溢れていました。

今回選んだ食事処は、三ノ輪から吉原方面に向い見返る柳前にある「桜肉の中江」、今年で創業101年になる老舗です。伝統に裏打ちされたみそ味の桜鍋は絶品で、都電の旅の締め括りとして参加者全員大満足の親睦の場となりました。



早稲田駅構内



雑司が谷の鬼子母神法明寺境内



鬼子母神参道



休み処「いっぽく亭」のある庚申塚駅



天然記念物のイチヨウの巨木



巣鴨地藏通商店街



とげぬき地蔵高岩寺



江戸六地藏真性寺



小台銀座



猿田彦大神



小台銀座



三ノ輪橋



音無親水公園



桜肉の店「中江」